

# 高等学校における望ましいキャリア教育のあり方について —学校と企業の役割—

群馬県教育委員会  
高校中堅教諭資質向上研修グループ協議  
報告資料

## 〈協議テーマ〉

- 学校教育に期待すること
- 学校・企業の役割
- 伸ばしたい生徒の資質・能力
- 企業の求める人材
- 企業の人材育成
- 高校生の実情と卒業後の進路について

2019年7月25日(木)  
12:35～16:20  
群馬県総合教育センター

開倫塾  
塾長 林 明夫  
(群馬経済同友会 会員)

Q 1 : 学校教育に期待することは何ですか。

A : (1)小学校・中学校・高校・大学・短期大学・専門学校・専修学校・大学院と、人間の発達段階に応じて、また、本人や社会の要請に応じて様々な学校が存在します。

(2)学校教育に期待することは、各段階の学校が果たすべき社会的使命(ミッション)を果たして頂きたいということです。

(3)高校であれば、高校でしか学べない教科内容や教科外の教育活動について、各学校で高く掲げる教育目標に従って教育し、高校として果たすべき社会的使命(ミッション)を果たして頂きたい。これが高校への期待です。



Q 2 : 具体的にはどのようなことですか。

A : (1)①目先の就職や進学に有利だからと、就職や進学を第一優先順位に考えないで、本来高校で教育すべきすべての教科内容や教科外のすべての教育活動に全力を傾注して高校生を教育、それぞれの高校の卒業生として、世の中に送り出して頂きたい。これが高校に対する期待です。

②なぜなら、高校で学ぶすべての教科内容と教科外のすべての教育活動は、社会に出てから仕事や社会的活動をする上で、更には充実した人生を送る上で役に立つからです。一生役に立つからです。役に立たないことは一つもないからです。

③そうであるなら、目先の就職や進学を優先させて、試験に出題される内容や教科を中心に学ぶことを許容することは、是非お避け頂きたく存じます。

(2)①高校で学ぶ教科のすべての内容と高校での教科外の教育活動は、高校でしか学ぶこと・経験することができません。高校で学ぶ内容を高校卒業後に一人で学び直すことは、困難を極めます。

②現代の高校生がこれからともに働き、活動するのは、日本人だけではなく、世界各地で教育を受けた人々です。高校時代の「基礎的な学び」が欠けていると、世界各地の高校で教育を受けた人々とともに活動することは困難を極めます。

(3)①言うまでもなく、高校卒業後に進学する大学・短期大学・専門学校・専修学校・大学院での教育・研究活動は、高校での学習が完了していることを前提に行われます。

②もし、少しでも高校での学習が不足しているときには、「リメディアル教育」や「初年次教育」で、高校の学習内容の学び直しが求められます。

③企業などでの業務内容も、高校での学習がすべて完了していることを前提に行われます。高校内容の知識等が不足しているときには、学び直しが求められます。



Q 3 : 勉強の仕方も身に付けておいたほうがよいのですか。

A : (1)①その通りです。例えば、メモの取り方等を身に付けていないと、仕事は身に着かず、  
②約束は果たせず、業務遂行上、支障をきたします。

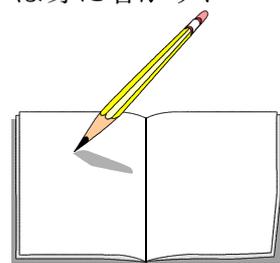
③授業中に大切なことをノートに取ることができるのは、大切な能力  
です。仕事をする際に大切なことをメモする訓練にもなります。

(2)①仕事をする上で、新しい知識を自分の力で身に付けなければなら  
ないことは山ほどあります。

②仕事をしている間中、学ぶべきことは次から次へと出てきます。

③その度ごとに、どのように勉強すればよいかわからないのでは、勉強が一向に進み  
ません。どのように学ぶのか、勉強の仕方を高校時代に身に付けておくことが求めら  
れます。

(3)高校卒業後も、テストをたくさん受けなければなりません。テストの  
度ごとにテスト対策はどうしたらよいかで悩み苦しんでいたのでは、勉  
強は進みません。テストの受け方も高校時代に身に付けておくことが求  
められます。



Q 4 : 学校の役割、企業の役割・企業の人材育成についてお話しください。

A : (1)学校は、すべての教科内容と教科外の教育活動を学校の教育目標にそってしっかりと行  
い、学校としての社会的使命(ミッション)を果たすこと。

(2)企業は、そのようにしてお育て頂いた一人ひとりの卒業生、社員の尊厳を尊重し、一人  
ひとりの潜在能力を企業内での活動で最大限伸ばして自己実現できるよう、企業内教育に  
励むこと。

① OFFJT(OFF the Job Training)と OJT(On the Job Training)、階級別研修など様々な  
教育プログラムを多くの企業が用意しています。

②その他、パソコン研修、マネジメント研修、外部研修などでスキル向上を図っています。

③配置転換などを通して多くのキャリアを経験させ、キャリア形成を行っています。

(3)インターンシップや教員の社会体験研修の受け入れ、PTA 活動や学校ボランティア派  
遣など、企業の社会貢献活動として協力できることには最大限協力。企業としての社会的  
責任(CSR)を果たす取り組みをしています。SDGsの取り組みも盛んです。

Q 5 : 伸ばして頂きたい生徒の資質・能力は何ですか。

A : (1)AI、IoT、5G の時代への対応がすべての企業に求められていま  
す。

(2)そのような時代に最も求められるのは、「読解力」(文字や情報  
を正確に、また、論理的、分析的に自分で読み取り、まとめ上げ、  
発信する力)です。



(3)「読解力」を身に着ける上で大切な三つのことを、高校時代に確実に行って頂ければ有難いです。

- ①「辞書」を活用し、「ことばの力」「語彙力」を身に着ける。様々なジャンルの業務には、基本的な「ボキャブラリー」が多数存在します。それらを身に着ける前提は、小・中・高校で学ぶ「ことば」です。



\* 1日10回以上は辞書を引く習慣を身に着けて頂きたい。

- ②「新聞」を活用し、世の中の動き、地域や日本、世界の動き、時代の変化を知り、「自分で考える力」「批判的思考(Critical thinking)能力」を身に着ける。

\* 1日30分以上は新聞を読む習慣を身に着けて頂きたい。

- ③「読書」により「思慮深さ」を身に着ける。各教科の教科書で紹介されているような各時代の「古典」とよばれる本に高校時代に1冊でも多く触れ、「著者・作者との時空を超えた対話」を少しでも多く経験させ、高校を卒業させてあげてください。

(4)大事なことは、高校時代に、「図書館」を使いこなす能力を身に着けることです。

- ①「辞書」は「英英辞典」を

- ②「新聞」は「複数の新聞」を。わかるところだけでOKなので、できれば「英字新聞」も読む。

- ③古典を中心にした「読書」を。この実現のためには「図書館」の活用が第一です。

- ④大学等に進学後は大学図書館、また、社会に出たら地域の図書館を最大活用できる能力を備えること。

- ⑤日本国内のみならず、海外を舞台とする高度な業務、問題解決型の業務の前提は、「読解力」を身に着けていること。そのために、図書館を使いこなせる人材が求められます。

(5)企業が求めるのは

- ①「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

- ②「多様な集団で行動する能力」

- ③「高い志を持ち、自律的に行動する能力」

この三つです。この前提が「読解力」です。



Q6：高校生の実情をどうお考えですか。卒業後の進路についてもお話してください。

A：(1)①超少子高齢化のため、大学等の高等教育への入学が容易になりました。

②超人手不足のため、有効求人倍率が高くなり、失業率が下がり、就職が容易になっています。

③このような中、人の生涯にとって大切な進学や就職を安易に考える高校生や保護者が多くなったように思われます。

④「自己責任」「自助努力」で「自分の未来は自分の力で切り開く」という気持ちで、高校1年生から進路を考えて頂きたく希望します。

(2)卒業後の進路として、専門性を極めるのであれば大学や短期大学、専門学校に進学後、「大学院」に進学することをおすすめいたします。

(3)① 35歳までは勉強。

② 35歳から70歳までは本気でやりたい仕事を。

③ 70歳から105歳までは元気にやりたい仕事や社会的活動、趣味などで充実した人生を。

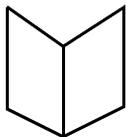
\* 35年刻みで、105歳までの人生設計をすることも一興と存じます。

(4)「びょうぶ型人生」のすすめ

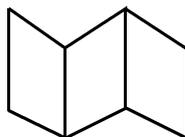
①



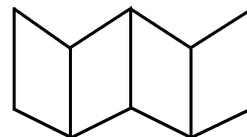
②



③



④



〈1枚びょうぶ型〉

〈2枚びょうぶ型〉

〈3枚びょうぶ型〉

〈4枚びょうぶ型〉

\* 仕事や社会的活動、趣味やスポーツ、芸術活動、読書、旅行など、一度始めたことは少しずつ継続し、いくつかのジャンルを少しずつ極めていく「びょうぶ型人生」もおすすめです。

\* 各ジャンルで一人ずつ友達ができれば、何人かは友達ができ、充実した人生が歩めます。その基礎をつくるのが高校教育です。

#### Q7：最後に一言どうぞ。

A：(1)最近、いろいろな企業人の方や専門の職業に就いている方とお話ししている中で気がついたことは、「中学・高校時代の知識・教養」が身に着いていれば、あとは「応用」でどのような仕事もこなすことができる。難しい仕事・研究・商品開発・販路開発・話し合い・交渉も最後は、「人間力」。その基礎となるのは、「知識・教養」。「知識・教養」の基礎は、高校の全教科で学んだこと。

(2)但し、残念・無念なのは、中学・高校時代にあまりよく学ばなかったこと。学んだことの大半を忘れてしまったこと。どうにか、もう一度学び直したいものだ。



(3)このような思いをしている企業人や専門職の人々が山ほどいます。

小学校や大学などの先生同様、中学校・高校の内容を教えてください先生ほど尊い先生はいらっしゃいません。

どうかよろしく願いいたします。

感謝